

第1回 欧州政策パネル：欧州議会選挙後の欧州の行方——デモクラシーの底力 渡辺 繭 グローバル・フォーラム執行世話人開幕挨拶

2019年7月24日、東京

みなさま、こんばんは。

グローバル・フォーラム執行世話人の渡辺繭でございます。本日、グローバル・ガバナンス学会の協力を得て「第1回欧州政策パネル：欧州議会選挙後の欧州の行方——デモクラシーの底力」を開催することができ、大変嬉しく存じております。

この「欧州政策パネル」には、パネリストとして渡邊啓貴グローバル・フォーラム有識者世話人／帝京大学教授、伊藤さゆり・ニッセイ基礎研究所研究理事、田中素香・東北大学名誉教授、伊藤武・東京大学教授、福田耕治・早稲田大学教授にお越しいただいております。また、本日はこのパネルのために飯村豊・元駐フランス大使がご多忙の中駆けつけてくださいました。皆様、日本を代表する欧州政治経済の専門家でございます。ようこそおいで下さいました。そしてご協力に改めて感謝申し上げます。

グローバル・フォーラムは、1982年に創立された「日米欧加四極フォーラム（四極賢人会議）」に淵源をもつ、民間・非営利・超党派・独立の国際知的交流団体です。

当フォーラムは、過去40年近くにわたり、米国、中国、韓国、ASEAN諸国、インド、豪州、欧州諸国、黒海地域諸国等の世界の国や地域との間で、相互理解の深化と国際秩序形成への寄与を目的として、「対話（Dialogue）」と称する政策志向の知的交流、ならびにそれらを補完する各種の活動を実施してまいりました。

現在、国際社会は百年に一度あるかないかのパワートランジションの影響下にあります。そうした中、当フォーラムは、この国際社会のメガトレンドを捉える上でも、我が国にとってきわめて戦略的重要性が高い欧州に着目し、その最新かつ正確な情報を収集・分析し、その成果を随時提言・発信する機会として、このたび「欧州政策パネル」を始動することにいたしました。

欧州は、近代民主主義の生みの親として、また「一つの欧州」に向けた地域統合の先駆的な実践者として、つねに時代の先進性を担保する地域であったといえます。近年、欧州各国では、ポピュリズムに代表される「民主主義の代償」ともいえる現象が目立つようになる一方で、さる5月の欧州議会選挙の結果にみるとおり、排外主義的ポピュリズムに抗する新たな親EU派の中道勢力が台頭するなど、欧州政治の再編成あるいは多元化の動きも確認されています。その意味では、欧州の統合、そして欧州のデモクラシーは、今、さらに新たな段階へと深化しつつあるとみることもできます。

本パネルをつうじて、私どもの提起する問題意識が広く皆様に共有され、日本を代表する欧州政治経済の専門家等の皆様と共に、欧州の最新動向等をめぐる活発な議論が行われることを期待いたします。

本日の会議の成功を祈念しつつ、開会のあいさつとさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。[了]